

資料1 アンケート提出用封筒（個人用）

アンケート提出用封筒

厚生労働省厚生科学研究  
「育児不安軽減のための小児科医の役割と  
プレネイタルビジットの評価に関する研究」  
～育児に対する意識調査～  
分担研究者：東北公益文科大学講師  
益邑 千草  
問合せ先：東北公益文科大学教務課

アンケート回収用封筒（組用）

アンケート調査用紙在中

（回収用封筒）

学校名： \_\_\_\_\_ 学校 \_\_\_\_\_  
学年・組： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 組  
配布数： \_\_\_\_\_ 部  
回収数： \_\_\_\_\_ 部

厚生労働省厚生科学研究  
「育児不安軽減のための小児科医の役割と  
プレネイタルビジットの評価に関する研究」  
～育児に対する意識調査～  
分担研究者：東北公益文科大学講師  
益邑 千草  
問合せ先：東北公益文科大学教務課

## 子育てについてのアンケートのお願い

- ☆ 子どもたちが伸び伸びと育ち、生き活きと遊び、健康な生活を過ごすためには、どうすればよいでしょうか。
- ☆ 皆さんが子育てについてどのように考えているのか、アンケートに答えてください。

- 1) テストではないので、皆さんが思ったとおりのことを書いてください。
- 2) 答えたくない問いがあれば、とぼしてもかまいませんが、簡単でもよろしいからなるべく問いに答えるようにしてください。
- 3) 書き終わったら、この用紙を封筒に入れて提出してください。  
記憶があいまいで書けないところがあっても、調べるために用紙を持ち帰ったりしないでください。

---

このアンケートは、厚生労働省の「育児不安軽減のための小児科医の役割と、プレネイタルビジットの評価に関する研究」（主任研究者：東邦大学医学部多田裕教授）の平成15年度分担研究「若年男女の育児に対する意識調査」です。

アンケート用紙は封筒に入れたまま、研究者のもとまで届きます。  
研究以外の目的に使うことはありません。アンケート用紙に番号が入っている場合がありますが、個人を特定することはありません。  
報告書には調査結果の分析を公表しますが、個人のプライバシーに関わるような詳しい回答内容は記載しません。

---

問い合わせ先：東北公益文科大学 益邑千草

それぞれの問いについて、当てはまるものを○で囲んでください。

( ) の中には、数字やことばを書き入れてください。

### 【1】あなたの身の回りのことについて

- 1) あなたは何人きょうだいですか。（あなた自身を含む） ( ) 人
- 2) 同居している家族の人数は（あなた自身を含む） ( ) 人
- 3) その中に、就学前の（＝小学校へ入学するまでの）乳幼児がいますか。  
( はい・いいえ )
- 4) 今、あなたの家族・親戚（しんせき）・近所の人・友人・知人など身近な人で、就学前の乳幼児を育てている人がいますか。( はい・いいえ )
- 5) 乳幼児とふれ合う機会が、今より多くある方がいいと思いますか。  
(例えば、抱っこをしてあやす、いっしょに遊ぶなど) ( はい・いいえ )  
「はい」と答えた方は、 6) へ進んでください。

「いいえ」と答えた方は、【2】へ進んでください。

6) あるといいと思うものに○をつけてください(いくつでも)。

「その他」に○をつけた方はその内容を( )内に書いてください。

- ( ) 1) 土曜日や夏休みなど学校の休日に、児童館などで幼い子どもと遊ぶ催しに参加する。
- ( ) 2) 土曜日や夏休みなど学校の休日にボランティア活動として、保育園などで保育の手伝いをする。
- ( ) 3) 土曜日や夏休みなど学校の休日にボランティア活動として、保健所などで、乳幼児健診に来た乳幼児の着替えなどを手伝う。
- ( ) 4) その他  
( )

【2】あなたの子育て体験や子どもころの様子について

- 1) あなたは、赤ちゃんに、ほにゅうびん(哺乳瓶)でミルクを飲ませたことがありますか。(はい・いいえ)
- 2) あなたは、赤ちゃんのおむつを換えたことがありますか。  
(はかせるタイプ、パンツ式のおむつをふくむ) (はい・いいえ)
- 3) あなたは、おまるやトイレで、幼い子どもに排便・排尿をさせたことがありますか。(はい・いいえ)
- 4) あなた一人で乳幼児の世話を何時間かしたことがありますか。(はい・いいえ)
- 5) あなたは、自分の母子手帳(母子健康手帳)を見せてもらったことがありますか。(はい・いいえ)
- 6) あなたは、自分が生まれたときのようすを両親(もしくは祖父母など世話をしてくれた人)にきいたことがありますか。(はい・いいえ)
- 7) あなたは、子育ての苦労話を両親(もしくは祖父母など世話をしてくれた人)にきいたことがありますか。(はい・いいえ)

「いいえ」と答えた方は8)へ進んでください。

「はい」と答えた方へ、どんなことだったのか簡単に書いてください。

(例えば:夜泣きがひどかった、など)

( )

8) できればこんなふうに育ててほしかったと思うことはありますか。

(はい・いいえ)

「いいえ」と答えた方は【3】へ進んでください。

「はい」と答えた方へ、それはどんなことなのか簡単に書いてください。

( )

【3】「家庭」のイメージについて

あなたは、「家庭」について、どんなイメージを持っていますか。

あなたの考えに近いものに○をつけてください（いくつでも）。

「その他」に○をつけた方はその内容を（ ）内に書いてください。

- |                                 |                  |
|---------------------------------|------------------|
| ( ) 1) あたたかい                    | ( ) 2) 安心できる     |
| ( ) 3) ひとりになれる                  | ( ) 4) 休養できる     |
| ( ) 5) 緊張する                     | ( ) 6) いろいろ話せる   |
| ( ) 7) つまらない                    | ( ) 8) 狭い        |
| ( ) 9) にぎやか                     | ( ) 10) 広々としている  |
| ( ) 11) しんとしている                 | ( ) 12) 冷たい      |
| ( ) 13) 疲れる                     | ( ) 14) 疲れがとれる   |
| ( ) 15) いろいろな人がいる               | ( ) 16) 気の合う人がいる |
| ( ) 17) いごちがよく、いつまでもいることができるところ |                  |
| ( ) 18) いつかは巣立って、去っていくところ       |                  |
| ( ) 19) その他                     |                  |

( )

2) いつか、あなたが自分の家庭をつくるとしたら、どんな家庭をつくりたいですか。自由に想像してみてください。（家族構成や、日々の様子など）

( )

【4】あなた自身のことについて

- 1) 満年齢は ( ) 歳
- 2) 性別は ( 男性・女性 )
- 3) 結婚していますか ( 結婚している・結婚していない )

「している」と答えた方は 4) へ進んでください

「していない」と答えた方は 6) へ進んでください

4) お子さんはありますか。 ( 子どもがいる・子どもはいない )

5) 子どもは何人くらいほしいですか。

( ほしい ( ) 人・ほしいとは思わない・わからない )

【5】へ進んでください

6) 将来、結婚するつもりですか。 ( はい・いいえ・わからない )

「いいえ」と答えた方は、【5】へ進んでください

「はい」「わからない」と答えた方は、7)へ進んでください

7) もし結婚したら、子どもはほしいですか。

( ほしい・ほしいとは思わない・わからない )

【5】赤ちゃんは、からだが大きくなるにつれて、いろいろなことができるようになりますね。次のようなことができる年齢は、だいたいいつごろだと思いますか(その年齢の子どもたちはほぼみんなできている、と思われるころ)。1つ選んで○で囲んでください。

1) おっぱい(母乳)を飲まなくなり、ほにゅうびんを使わなくなるのは  
( 生後6ヵ月ごろ、 1歳6ヵ月ごろ、 3歳ごろ、 4歳6ヵ月ごろ )

2) 転ばずにひとりで歩けるようになるのは  
( 生後8ヵ月ごろ、 1歳6ヵ月ごろ、 3歳ごろ、 4歳6ヵ月ごろ )

3) おむつがとれる(いらなくなる)のは  
( 生後10ヵ月ごろ、 1歳ごろ、 3歳ごろ、 5歳ごろ )

4) マンマ、プープーなど、意味のあることばを話すようになるのは  
( 生後8ヵ月ごろ、 1歳6ヵ月ごろ、 3歳ごろ、 4歳6ヵ月ごろ )

【6】少子化について

近年、日本では出生数が減少し、年少者が人口に占める割合も低下し続けています。少子化の原因として、考えられることはどんなことですか。

あなたの考えに近いものには○(いくつでも)、最も近いもの1つには◎をつけてください。

「その他」に○をつけた方はその内容を簡単に( )内に書いてください。

( ) 1) 結婚すれば子どもをつくるのがふつうであるという人が減ってきたから

( ) 2) 老後を子どもに養ってもらうために子どもを産むという人が減ってきたから

( ) 3) 家を継ぐのは男の子だから、男の子が生まれるまで子どもを産むという人が減ってきたから

( ) 4) 既に生まれたが女(または男)の子だから、男(または女)の子が生まれるまで子どもを産むという人が減ってきたから

( ) 5) 望ましい子どもに育てるには親が手をかける必要があるので、

少人数しか育てられないから

- ( ) 6) 一人っ子は育てにくい、一人っ子は社会性が育ちにくいなどと、一人っ子を否定的に考える人が減ってきたから
- ( ) 7) 女性がやりがいのある仕事を持ち、出産や育児は、仕事と両立できることを条件にするようになったから
- ( ) 8) 子育てに費用が、かかりすぎるから  
(例えば、出産費用・おけいごと・学費など)
- ( ) 9) 子育てにふさわしい住宅が手に入りにくいから  
(例えば、広くて子ども部屋がある、子どもの泣き声や騒ぐ音を気にしなくてもよい環境である、など)
- ( ) 10) 保育園などの親に代わって子育てをする施設が充分でないから
- ( ) 11) 子どもの健康を守る病院などの医療機関が充分でないから
- ( ) 12) 子育ての悩みの相談にのったりする支援体制が充分でないから
- ( ) 13) その他  
( )

【7】今後の予測について

- 1) 今後も少子化が続くと思いますか。 ( はい・いいえ・わからない )
- 2) 少子化傾向にブレーキをかけるような対策をとるべきだと思いますか。  
( はい・いいえ・わからない )
- 3) 「はい」と答えた方へどのような対策をとればよいと思いますか。

最も重要だと思うものを3つまであげてください。

- ( )
- ( )
- ( )

特に詳しく述べたいアイデアや意見があれば、下の欄に自由に書いてください。

- ( )

ご協力ありがとうございました。この用紙は封筒に入れて提出してください。

## 資料3 高等学校の調査結果

## 問1 1)

人数	1年生	2年生	3年生	計
1人	3 (1.7%)	14 (6.4%)	7 (3.4%)	24 (4.0%)
2人	79 (45.4%)	124 (56.6%)	100 (48.3%)	303 (50.5%)
3人	80 (46.0%)	69 (31.5%)	89 (43.0%)	238 (39.7%)
4人	9 (5.2%)	7 (3.2%)	8 (3.9%)	24 (4.0%)
5人	3 (1.7%)	3 (1.4%)	3 (1.4%)	9 (1.5%)
記入なし	0 (0.0%)	2 (0.9%)	0 (0.0%)	2 (0.3%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)
平均	2.6人	2.4人	2.5人	2.5人

## 問1 2)

人数	1年生	2年生	3年生	計
1人	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	1 (0.2%)
2人	1 (0.6%)	5 (2.3%)	10 (4.8%)	16 (2.7%)
3人	14 (8.0%)	33 (15.1%)	19 (9.2%)	66 (11.0%)
4人	30 (17.2%)	47 (21.5%)	39 (18.8%)	116 (19.3%)
5人	50 (28.7%)	58 (26.5%)	62 (30.0%)	170 (28.3%)
6人	43 (24.7%)	49 (22.4%)	38 (18.4%)	130 (21.7%)
7人	28 (16.1%)	20 (9.1%)	27 (13.0%)	75 (12.5%)
8人	5 (2.9%)	5 (2.3%)	6 (2.9%)	16 (2.7%)
9人	2 (1.1%)	2 (0.9%)	4 (1.9%)	8 (1.3%)
10人以上	* 1 (0.6%)	0 (0.0%)	** 1 (0.5%)	2 (0.3%)
記入なし	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)
平均	5.4人	4.9人	5.1人	5.1人
	* 13人		** 10人	

## 問1 3)

	1年生	2年生	3年生	計
はい	11 (6.3%)	4 (1.8%)	8 (3.9%)	23 (3.8%)
いいえ	163 (93.7%)	214 (97.7%)	199 (96.1%)	576 (96.0%)
記入なし	0 (0.0%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

## 問1 4)

	1年生	2年生	3年生	計
はい	112 (64.4%)	141 (64.4%)	137 (66.2%)	390 (65.0%)
いいえ	62 (35.6%)	77 (35.1%)	69 (33.3%)	208 (34.7%)
記入なし	0 (0.0%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)	2 (0.3%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

## 問1 5)

	1年生	2年生	3年生	計
はい	111 (63.8%)	133 (60.7%)	143 (69.1%)	387 (64.5%)
いいえ	62 (35.6%)	85 (38.8%)	63 (30.4%)	210 (35.0%)
記入なし	1 (0.6%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)	3 (0.5%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

## 問1 6) (複数回答)

( )の%は各学年の人数に対して

	1年生	2年生	3年生	計
1	41 (23.4%)	42 (19.2%)	76 (36.7%)	159 (26.5%)
2	* 80 (48.8%)	** 89 (40.6%)	*** 88 (42.5%)	# 257 (42.8%)
3	35 (20.1%)	42 (19.2%)	51 (24.6%)	128 (21.3%)
4	8 (4.6%)	10 (4.6%)	19 (9.2%)	37 (6.2%)
記入なし	2 (1.2%)	11 (5.0%)	3 (1.5%)	2 (0.3%)
1~4の計(延べ)	164	183	234	581

\*5) 「はい」の111名 に対して72.1%    \*\*5) 「はい」の133名 に対して66.9%    \*\*\*5) 「はい」の143名 に対して61.5%    #5) 「はい」の387名 に対して66.4%

## 問2 1)

	1年生	2年生	3年生	計
はい	62 (35.6%)	76 (34.7%)	96 (46.4%)	234 (39.0%)
いいえ	102 (58.6%)	138 (63.0%)	102 (49.3%)	342 (57.0%)
記入なし	10 (5.7%)	5 (2.3%)	9 (4.3%)	24 (4.0%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

## 問2 2)

	1年生	2年生	3年生	計
はい	46 (26.4%)	49 (22.4%)	60 (29.0%)	155 (25.8%)
いいえ	118 (67.8%)	165 (75.3%)	138 (66.7%)	421 (70.2%)
記入なし	10 (5.7%)	5 (2.3%)	9 (4.3%)	24 (4.0%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

## 問2 3)

	1年生	2年生	3年生	計
はい	40 (23.0%)	43 (19.6%)	66 (31.9%)	149 (24.8%)
いいえ	125 (71.8%)	171 (78.1%)	132 (63.8%)	428 (71.3%)
記入なし	9 (5.2%)	5 (2.3%)	9 (4.3%)	23 (3.8%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

## 問2 4)

	1年生	2年生	3年生	計
はい	52 (29.9%)	50 (22.8%)	74 (35.7%)	176 (29.3%)
いいえ	112 (64.4%)	164 (74.9%)	124 (59.9%)	400 (66.7%)
記入なし	10 (5.7%)	5 (2.3%)	9 (4.3%)	24 (4.0%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

## 問2 5)

	1年生	2年生	3年生	計
はい	112 (64.4%)	166 (75.8%)	149 (72.0%)	427 (71.2%)
いいえ	52 (30.0%)	48 (21.9%)	48 (23.2%)	148 (24.7%)
記入なし	10 (5.7%)	5 (2.3%)	10 (4.8%)	25 (4.2%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

## 問2 6)

	1年生	2年生	3年生	計
はい	134 (77.0%)	185 (84.5%)	169 (81.6%)	488 (81.3%)
いいえ	30 (17.2%)	29 (13.2%)	29 (14.0%)	88 (14.7%)
記入なし	10 (5.7%)	5 (2.3%)	9 (4.3%)	24 (4.0%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

## 問2 7)

	1年生	2年生	3年生	計
はい	109 (62.6%)	143 (65.3%)	137 (66.2%)	389 (64.8%)
いいえ	56 (32.2%)	70 (32.2%)	61 (29.5%)	187 (31.2%)
記入なし	9 (5.2%)	6 (2.7%)	9 (4.3%)	24 (4.0%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

## 問2 8)

	1年生	2年生	3年生	計
はい	29 (16.7%)	51 (23.3%)	42 (20.3%)	122 (20.3%)
いいえ	127 (73.0%)	148 (67.6%)	140 (67.6%)	415 (69.2%)
記入なし	18 (10.3%)	10 (4.6%)	25 (12.1%)	63 (10.5%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)



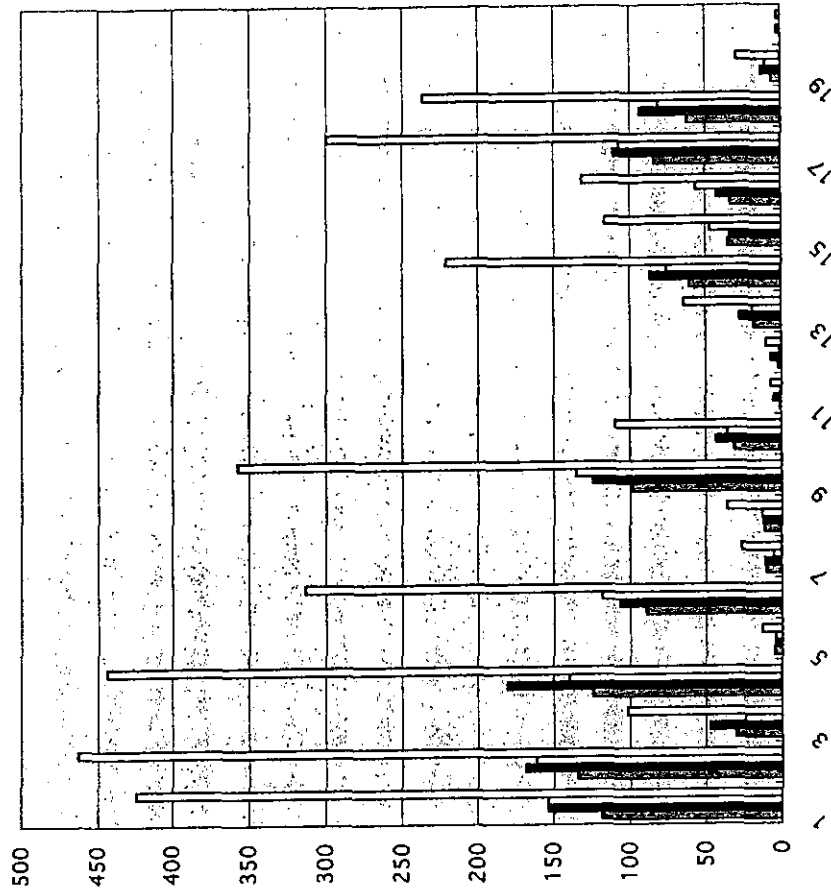
問3 1) (複数回答)

問3 1)

	1年生	2年生	3年生	計	*	%
1	118	153	153	424		70.7
2	134	168	161	463		77.2
3	30	47	24	101		16.8
4	124	180	139	443		73.8
5	5	4	4	13		2.2
6	89	106	118	313		52.2
7	10	11	5	26		4.3
8	11	12	13	36		6
9	98	124	135	357		59.5
10	31	43	35	109		18.2
11	1	5	1	7		1.2
12	2	7	1	10		1.7
13	18	27	19	64		10.7
14	60	86	75	221		36.8
15	35	34	47	116		19.3
16	33	42	56	131		21.8
17	83	110	106	299		49.8
18	62	93	81	236		39.3
19	6	13	10	29		4.8
記入なし	0	2	0	2		0.8

\*600名に対する百分率

図1年生 2年生 3年生 口計



問4 1)・2) アンケート回答者について

	年 齢						記入なし	計
	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳		
男子	0	4	11	6	0	1	* 1	23
女子	40	191	213	153	1	0	** 2	600
不明#							***	1
計	40	195	224	159	1	1	3	624

#印刷の不備による

\* 2年生

\*\* 1年生・3年生

\*\*\* 3年生

男子 22名 平均17.2歳

女子598名 平均16.8歳

問4 1)・2) 分析対象者について

	年 齢					記入なし	計
	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳		
女子	40	191	213	153	1	2	600

年齢の記載のある598名について 平均16.8歳

問4 2) アンケート回答者について

	1年生	2年生	3年生	計
男子	2	11	10	23
女子	174	219	207	600
不明*			1	1
計	176	230	218	624

\*印刷の不備による

問4 3) アンケート回答者について

結婚している	結婚していない	不明	計
0	623	1	624

問4 4) 及び5) については本文参照。

問4 6)

	1年生	2年生	3年生	計
はい	113 (64.9%)	131 (59.8%)	156 (75.4%)	400 (66.7%)
いいえ	8 (4.6%)	9 (4.1%)	5 (2.4%)	22 (3.7%)
わからない	50 (28.7%)	73 (33.3%)	40 (19.3%)	163 (27.2%)
記入なし	3 (1.7%)	6 (2.7%)	6 (2.9%)	15 (2.5%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

問4 7)

	1年生	2年生	3年生	計
ほしい	137 (78.7%)	166 (75.8%)	173 (83.6%)	476 (79.3%)
ほしいとは思わない	3 (1.7%)	10 (4.6%)	8 (3.9%)	21 (3.5%)
わからない	20 (11.5%)	25 (11.4%)	14 (6.8%)	59 (9.8%)
記入なし	14 (8.0%)	18 (8.2%)	12 (5.8%)	44 (7.3%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

## 問5 1)

	1年生	2年生	3年生	計
生後6ヵ月ごろ	50 (28.7%)	67 (30.6%)	55 (26.6%)	172 (28.7%)
1歳6ヵ月ごろ	90 (51.7%)	116 (53.0%)	116 (56.0%)	322 (53.7%)
3歳ごろ	21 (12.1%)	26 (11.9%)	25 (12.1%)	72 (12.0%)
4歳6ヵ月ごろ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.9%)	2 (0.3%)
記入なし	13 (7.5%)	10 (4.6%)	*9 (4.3%)	32 (5.3%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

\*うち2は、「生後6ヵ月ごろ」と  
「1歳6ヵ月ごろ」の間に○

## 問5 2)

	1年生	2年生	3年生	計
生後8ヵ月ごろ	19 (10.9%)	27 (12.3%)	26 (12.6%)	72 (12.0%)
1歳6ヵ月ごろ	93 (53.4%)	129 (58.9%)	104 (50.2%)	326 (54.3%)
3歳ごろ	45 (25.9%)	49 (22.4%)	67 (32.4%)	161 (26.8%)
4歳6ヵ月ごろ	5 (2.9%)	4 (1.8%)	2 (1.0%)	11 (1.8%)
記入なし	12 (6.9%)	10 (4.6%)	*8 (3.9%)	30 (5.0%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

\*うち1は、「生後8ヵ月ごろ」と  
「1歳6ヵ月ごろ」の間に○

## 問5 3)

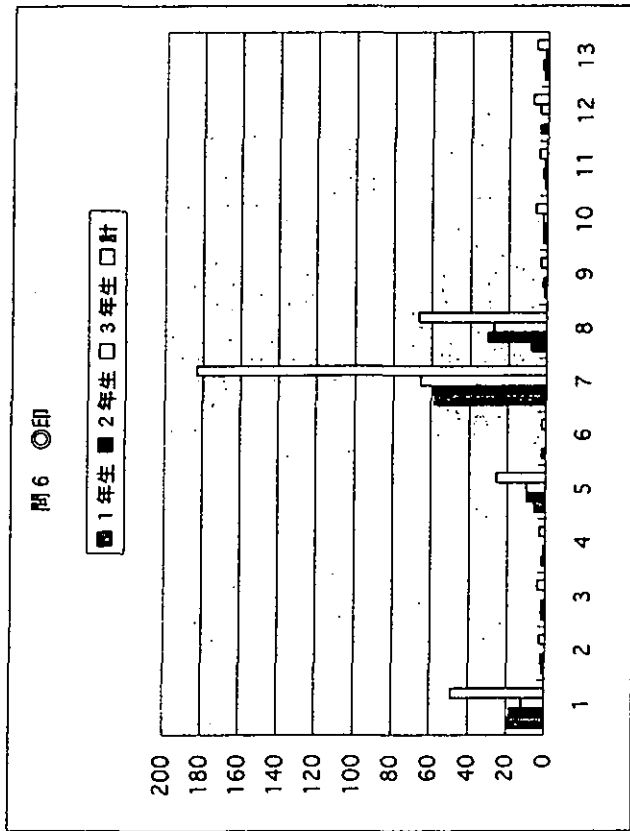
	1年生	2年生	3年生	計
生後10ヵ月ごろ	3 (1.7%)	3 (1.4%)	4 (1.9%)	10 (1.7%)
1歳ごろ	42 (24.1%)	60 (27.4%)	44 (21.3%)	146 (24.3%)
3歳ごろ	99 (56.9%)	124 (56.6%)	134 (64.7%)	357 (59.5%)
5歳ごろ	17 (10.0%)	22 (10.0%)	18 (8.7%)	57 (9.5%)
記入なし	13 (7.5%)	10 (4.6%)	7 (3.4%)	30 (5.0%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

## 問5 4)

	1年生	2年生	3年生	計
生後8ヵ月ごろ	55 (31.6%)	56 (25.6%)	58 (28.0%)	169 (28.2%)
1歳6ヵ月ごろ	87 (50.0%)	114 (52.1%)	114 (55.1%)	315 (52.5%)
3歳ごろ	16 (9.2%)	34 (15.5%)	24 (11.6%)	74 (12.3%)
4歳6ヵ月ごろ	3 (1.7%)	5 (2.3%)	4 (1.9%)	12 (2.0%)
記入なし	13 (7.5%)	10 (4.6%)	7 (3.4%)	30 (5.0%)
計	174 (100.0%)	219 (100.0%)	207 (100.0%)	600 (100.0%)

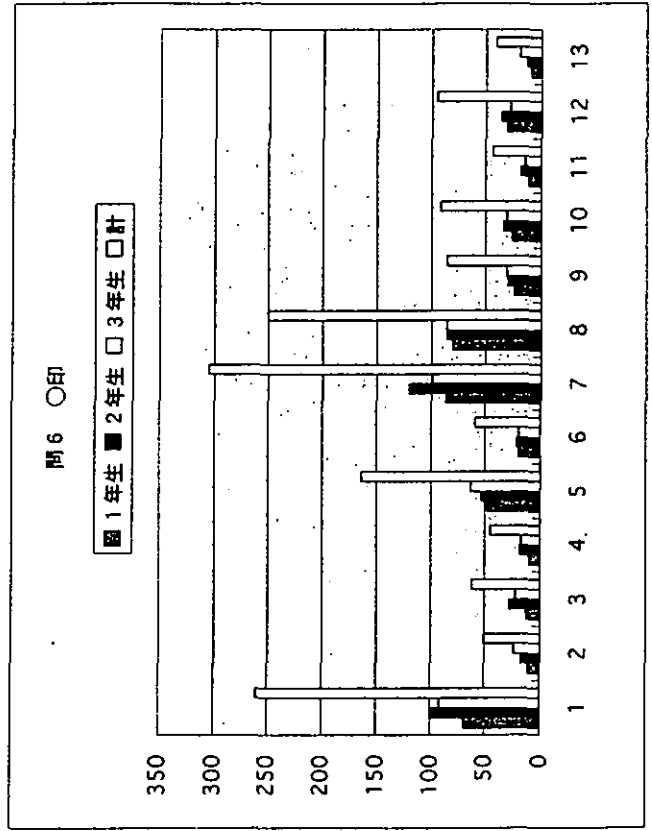
問6 ◎印

	1年生	2年生	3年生	計
1	19	18	12	49
2	1	2	0	3
3	2	2	0	4
4	2	1	0	3
5	6	10	10	26
6	2	0	0	2
7	58	59	66	183
8	8	31	28	67
9	1	2	0	3
10	2	2	2	6
11	1	2	1	4
12	4	0	4	8
13	2	3	1	6
計(延べ)	108	132	124	364



問6 ○印

	1年生	2年生	3年生	計
1	69	100	91	260
2	10	17	24	51
3	12	28	22	62
4	10	18	17	45
5	48	53	63	164
6	19	21	19	59
7	86	120	99	305
8	80	85	85	250
9	24	30	31	85
10	26	34	31	91
11	11	18	14	43
12	31	36	28	95
13	9	13	19	41
計(延べ)	445	573	543	1,561
○も◎も記入なし	1	6	1	8



問7 1)

	1年生	2年生	3年生	計
はい	126	151	137	414 (69.0%)
いいえ	1	7	6	14 (2.3%)
わからない	46	60	64	170 (28.3%)
記入なし	1	1	0	2 (0.3%)
計	174	219	207	600 (100.0%)

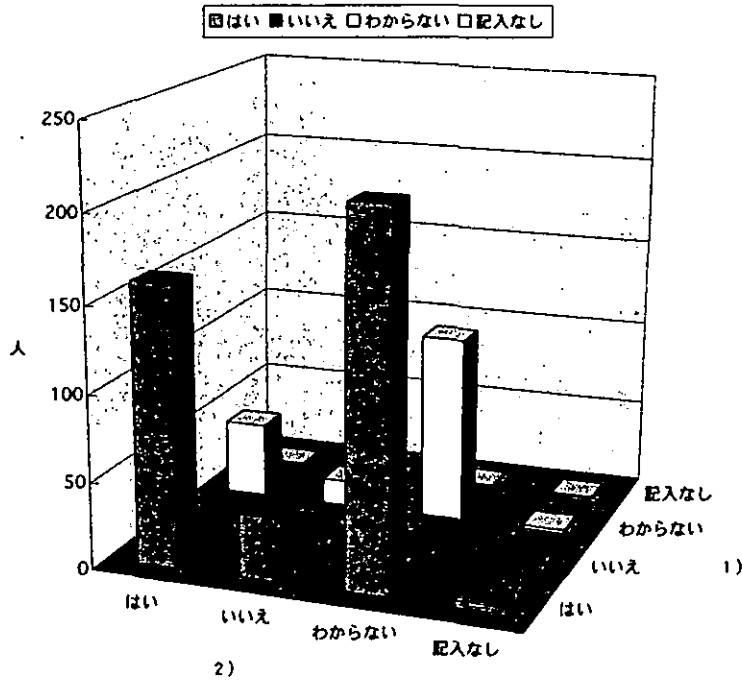
問7 2)

	1年生	2年生	3年生	計
はい	70	70	67	207 (34.5%)
いいえ	10	21	27	58 (9.7%)
わからない	92	124	111	327 (54.5%)
記入なし	2	4	2	8 (1.3%)
計	174	219	207	600 (100.0%)

問7 1)と2)

		2)				
		はい	いいえ	わからない	記入なし	計
1)	はい	161	36	213	4	414 (69.0%)
	いいえ	2	7	4	1	14 (2.3%)
	わからない	44	15	109	2	170 (28.3%)
	記入なし	0	0	1	1	2 (0.3%)
	計	207 (34.5%)	58(9.7%)	327(54.5%)	8 (1.3%)	600 (100.0%)

問7



育児不安軽減のための小児科医の役割とプレネイタルビジットの評価に関する研究  
分担研究：親たちのかかりつけ医とプレネイタルビジットに関する意識調査

日本子ども家庭総合研究所 中村 敬

研究目的：

21世紀の子どもたちを取り巻く社会環境は、決して恵まれているとは言い難い。子どもたちの健康や生活を守る社会体制、教育のための制度はよく整備されているが、それにもかかわらず、育児不安は増大し、虐待などの育児にまつわるトラブルが続出している。このために、地域において重要な役割を担うと考えられる子どものかかりつけ医に対して、親たちはどのような期待をもち、どのような医師像を求めているのか、これを知るために2001年および2002年にわたり子育て中の親を対象にアンケート調査を行った。今年度は、自由記述欄に記載された親たちの生の声を分析したので報告する。

研究対象および方法：

2001年に、財団法人母子衛生研究会が主催する全国の流通店舗内に設置している母子保健相談室230カ所を訪れた乳幼児を対象として行った調査回答数1028件をもとに、「かかりつけ医に何を求めるか」についての自由記述欄に記載された親たちの生の声を質的に分析した。

方法は、自由記述欄回答数219件の文章から重要と思われる言葉および文節をオープンコード化し、概念を抽出し集計を行った。さらに、これらの概念が意味する親たちの生の声を要約してまとめた。

結果と考察

- 1) 自由記述欄にきにゆうしたものの頻度は21.4%であった。
- 2) 概念を示すと、「説明と同意」に分類される記述は32.9%、「対応の態度」に分類される記述は18.3%、「診療時間」に関する記述は10.0%、「気軽な相談」に関する記述は9.6%、「時間外対応」に関する記述は7.3%、「子ども（自身）への対応」に関する記述は5.0%、「医療体制」に関する記述は3.7%、「情報提供」や「患者情報の的確な把握」に関する記述が3.7%、「専門機関への適切な紹介」が3.2%であった。
- 3) 「説明と同意」に関する記述は、医師の説明義務に対するもので、「わかりにくい」、「面倒くさがる」、「専門用語がわからない」、「病状や経過の把握ができない」などの苦情とも言える意見が大半を占めており、わかりやすい納得できる説明を求めている。
- 4) 「対応の態度」では、「親を叱る」、「不安を募らせる」、「説明を求めると怒る」、「患者の身になって答えてほしい」など医師としての対応の態度に苦情を述べているものが多かった。患者が医師に向かったとき、恐る恐る病状を聞き出す様が描き出されていた。
- 5) 「診療時間」については、急病時にはいつでも診てもらえる、同じ医師に診てもらえる、時間外でも対応してほしいなど子どもを抱えた母親達の共通の願望が示されていた。
- 6) 「医療体制」に関する記述では、小児科医が不足している社会への危機感を抱いている様子が窺え、「情報提供」に関する記述では医師から病気の予防、健康や病気の知識、子どもの発達など

さまざまな情報提供を望んでいる。

7) 「気軽な相談」に関する記述では、病気のことも含めて子育てのことや健康のことについて気軽に答えてくれる気さくさと、余裕を求めている。子育ての不安にももっと真剣に答えてほしいという記述もみられた。

まとめ

1) アンケート調査の自由記述欄の文章を、熟語または文節ごとにオープンコード化し、概念を抽出した。この概念ごとに親たちの生の声を要約して親たちの訴えを具体化した。

2) 大きくまとめると、親たちが医師に求めるものは「素人にもわかる言葉で、丁寧に病状を説明し、説明の態度は上から頭ごなしではなく、相手のところに配慮した優しさが求められる。また、子どもにもわかるように説明し、子どもを大勢の子どもの中の一人ではなく、その子の名前を呼ぶなど親子ともどもその個性に合致した対応を求めている。また、日頃の健康に関する心配事や病気の予防などに関する知識を情報提供者として積極的に果たすことを求めている。」

医師の言い方によっては、不安が助長されることも往々にしてあり、とくに、医師の説明の義務と患者への対応に関する苦情とも言える意見が多かった。

3) 医師の役割は、患者から不安を取り除くことであることを親たちは訴えている。

表:自由記載欄コード別割合

コード	件数	%
説明と同意	72	32.88
対応の態度	40	18.26
診療時間	22	10.05
気軽な相談	21	9.59
時間外対応	16	7.31
子どもへの対応	11	5.02
医療体制	8	3.65
情報提供	8	3.65
的確な情報の把握	8	3.65
専門病院への紹介	7	3.20
スタッフの対応	6	2.74
医院の設備	6	2.74
豊富な知識	6	2.74
信頼関係	5	2.28
診療内容の一致	5	2.28
待たされない診療	5	2.28
子ども向き設備	4	1.83
子育て相談	4	1.83
心への配慮	4	1.83
予約制	4	1.83
患者の立場	3	1.37
プレネイタルビジット	2	0.91
責任ある診療	2	0.91
丁寧な診療	2	0.91
予防の知識	2	0.91
医師の人柄	1	0.46
医療情報	1	0.46
医療態度	1	0.46
医療費軽減	1	0.46
救急時の対応	1	0.46
近所の評判	1	0.46
継続した医療	1	0.46
行き届いた指導	1	0.46
自己管理	1	0.46
小児科専門医	1	0.46
情報の開示	1	0.46
病気の感染予防	1	0.46
病気以外の相談	1	0.46
ケース合計	219	100.00

自由記載欄回答率

21.40



## 平成15年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

厚生労働科学研究「育児不安の軽減のための小児科医の役割とプレネイタルビジットの評価に関する研究」

班フォーラム（平成16年3月7日 於アルカディア市谷）

出席者：主任研究者：多田裕、分担研究者：中村敬、保科清、宇賀直樹、益村千草

厚生労働省：谷口隆（母子保健課長）

日本医師会：柳田喜美子（日本医師会理事）

評価委員：中村肇（兵庫県立こども病院）、清川尚（船橋市立医療センター、日本産婦人科医会）、朝倉啓文（日本医科大学産婦人科、日本産婦人科医会）、三科潤（東京女子医大母子医療センター）

他班関係者：柳沢正義（国立成育医療センター）、田中正信（東邦大学産婦人科）

出席者：松岡幸一郎（大分県産婦人科）、東保裕の介（大分県小児科）、河野幸浩（大分県小児科）、三浦義孝（盛岡市小児科）、新津直樹（甲府市小児科）、中野省三（松山市小児科）、渡辺昭彦（横浜市青葉区小児科）、石川広巳（鎌ヶ谷市小児科）、沢晶子（安房郡小児科）、吉永陽一郎（久留米市小児科）、門井伸暁（大和市小児科）、森茂（岡山市小児科）、犬飼和久（浜松市小児科）、松田恭寿（下妻市小児科）

【多田】 それでは班会議を始めさせていただきます。大変お忙しい中を多数お集まりいただきましてありがとうございます。きょう名簿をここに配らせていただいております。

最初に一言ごあいさつをさせていただきます。この私どもの研究班は「育児不安軽減のための小児科医の役割とプレネイタルビジットの評価に関する研究」ということでございまして、今年が最終年度になりました。昨年も何人かの先生方にお集まりいただきまして、2回フォーラムを開かせていただきました。

それから1年後でございますが、私どもの研究班が3年間終わるといこともございますので、プレネイタルビジットの活動をしておられる先生方からお話をいただくことと、厚生労働省の谷口課長に昨年このフォーラムでいろいろ注文をつけて新しい制度にさせていただいたので、今後どう変わっていくだろうかという見通しをご議論いただきたいと思ってフォーラムを開かせていただきました。

評価委員として、日本医師会から柳田先生、産婦人科医会のほうから朝倉先生と清川先生、小児学会側から中村先生と三科先生に加わっていただいております。田中先生と柳沢先生は鴨下班として、今後の産婦人科や小児科の医師の確保、あるいは小児科医の役割、あるいは産婦人科も入るかもしれませんが、その役割ということでご検討をいただいておりますので、きょうご参加をいただきました。

大分をはじめとする各地で、この厚生労働省の事業、あるいは医師会で取り上げていただきました「かかりつけ医確保のための」プレネイタルビジット活動を取り上げていただいております各地の小児と産科の先生をお招きしました。医師会なり厚生労働省のモデル事業としてはやっていないが、個人的に非常に熱心にやっておられる先生方にもお集まりいただきました。

最初に私どもの研究班の活動をまずご紹介しておきますと、中村敬先生には、お母さま方からのアプローチを含めて、育児不安軽減とかプレネイタルビジットの問題に取り組んでいただきました。保科先生には、小児科医会を通じて小児科医の役割や、育児不安とか、プレネイタルビジットにどう取り組んでおられるかという調査や検討をしていただきました。宇賀先生には、実際にプレネイタルビジットを実施しての効果を検討していただきました。

これらの検討を通じて考えたことは、どうも妊娠してからの問題ではなく、お母さんになる女性たちの育児の考え方、あるいは子育て、結婚観などにもアプローチしていかなければいけないのではなからうかという問題でした。そこで以前課長補佐として母子保健課にお務めだった益邑先生に加わっていただき、現在酒田にある東北公益文化大学で先生をしておられますので、若い女性を中心に、お母さんになる前の人たちの意識調査と、どの様にアプローチしたらいいかということを考えていただくという活動を続けてまいりました。本日は、時間がありませんので班員の方にフォーラムの中でご討議いただくようお願いいたします

この3年間の間に随分変わってきたことがあります。社会的には育児不安、あるいは虐待というのが非常に増えてきたことがマスコミでも取り上げられます。一方医者の方では、小児科医の中で今まであまり注目されていなかったプレネイタルビジットを含めた育児不安に対する支援が、産婦人科と小児科にとって非常に大事なテーマになってきたような気がいたします。

それと同時に、小児救急が非常に大きな問題になり、今年のこのフォーラムでも谷口課長からお話がございましたが、小児科医が取り組まなければならない非常に大事な分野、病院だけではなしに開業の先生方にも取り組んでいただくべき地域の救急医療が話題になったような気がいたします。

小児医療の中では、従来のような小児医療あるいは予防接種などの活動と、それから小児救急医療がこれから非常に注目されて整備されていくと思いますが、それともう一つ欠かせないものとして子育て支援、これが産婦人科医にとっても小児科医にとっても非常に大事な問題になります。私は新生児をやっておりますので、新生児の中でこの問題を取り上げるという立場で参りました。ここに参加しておられる熱心な先生方も、小児科の中でも特に新生児をおやりになった方がこういう育児支援とか育児活動をしていこうということで、吉永先生、新津先生をはじめ、犬飼先生もそうですし、門井先生もそうだと思いますが、そういう活動をしながら地域で活動をしてくださっています。

従って、今までの小児医療と救急医療と子育て支援、この三つの柱、あるいは産婦人科はお産のほかに婦人科のほうがあるでしょうけれども、そちらはちょっと除きますと、やはりこの子育てに関与していただくということが非常に大事になってきた。先ほど述べました様な虐待などを考えても、社会のお母さんたちのそういう産科医や小児科医に対するニーズが変わってきたような気がいたします。

そんなことで、各地での活動をご紹介いただき、その後で今後の方向をどうしていったらいいかということの議論をしていただければ幸いです。

最初に、一番熱心を実施しておら、今後のモデルになっていくと考えられる大分県からご紹介いただきたいと思いますが、その前に中村先生から家族のほうが今どんなニードを持っているかということのを、今までの研究班での調査を踏まえてご紹介いただき、それに対して医者側がどのように対応していくかという問題として各地の活動をご報告いただければと思います。

【中村（敬）】 私自身は地域の医師絵はなくプレネイタルビジットそのものにかかわっているということはありません。私は子育て支援の中で実際に子育てをしている親たちの仲間に入って、いろいろなことをインタビューといいますか、雑談の中で情報を集めています。それから、この研究班で、初年度から2年間にわたって地域の子育て中の親を対象にアンケート調査をさせていただいた結果をかいつまんで報告させていただきます。

一つは、医師に対する親たちの希望にどんなのがあるのかというのを初年度に調べましたが、救急医療、あるいは困ったときに病気の治療をしてほしい。それから腕を磨いてくれなんて、勝手なことを書いてあります。その中でやはり、そんなに少ない数ではなくて、子育てのいろんな悩みなどにもう少し医師という専門の立場で答えてほしい、そういう回答がございます。

それから、かかりつけ医に対してどんな像を求めているかというので調べまして、これは統計的に共分散構造分析という統計資料がございます、それを使って検討した結果がございます。それでいきますと、親が求めているのは小児科の専門医であって、医院や何かも子供向けにできていて、子供専門の医院であるというようなことが一番求められているようでございます。統計的に処理しますとそういうことになります。

そのほかに、気さくに相談に乗ってくれる。専門の診療科が何であるかは関係なしに、気さくに相談に乗ってくれるという医師を求めているようなところがございます。あとは、変な言い方ですけれども、要するにフットワークがよくて、何かのときにはすぐ相談に乗ってくれて、助けてくれる、そういうタイプの医師を母親たちは求めているようです。それから、自由に記載してくれた内容をまとめてみますと、親たちが医師に一番求めるものはインフォームド・コンセント。要するに、説明をきちっと、分かりやすい説明をしてほしいというところに大体集約されます。その次に多いのが、困って相談に行ったのだから、それに対してきちっと答えてほしい。忙しいのは分かるけれども、そこのところを考えてほしい。3番目は診療時間。いつでも診てもらいたいということですが、これはなかなか難しいところだと思いますけれども。

あと個別にいろいろ聞いている話ですと、保健機関の健診で指摘されて、医療機関に紹介され

て行った。そのときに、親のほうはかなりいろんな不安を持っているわけですので、その不安をある程度解消してくれるような、そういう対応を求めている。ところが必ずしもそうではなくて、そっけなく「心配ないよ」と言われちゃったり、「こんなの放っておけばいいんだよ」と言われたり、そういう態度に対して問題提起している親が結構いるように思います。

私も小児科の医者なんですけれども、子育てに伴ったいろんな不安を持っているときに医師がどう対応するかといった辺りに、十分われわれはそういう技量をつけておかないといけないだろう。そんな結論に達しております。

【多田】 プレネイタルビジットのところをちょっとコメントしてください。

【中村（敬）】 プレネイタルビジットは私の関係している地域にないものですから直接携わってはいないのですが、育児不安を軽減していく、それから虐待のリスクアセスメントをしていくといったときに、やはりこのプレネイタルビジットというのはかなり重要な部分になっていくと思います。あとはそれぞれの受け渡し所といいますか、例えば産婦人科の先生から小児科の先生に行った、小児科の先生のそれに対する対応、要するにクオリティーをどうやって今後維持するかというところを考えていかないといけないのではなかろうか。制度的には非常に重要な部分であろう。ただ、そのクオリティーをどう確立していくかといったところに問題が残るのではないかということではよろしいですか。

【多田】 ありがとうございます。

それでは、各地のご報告をいただければと思います。最初に、非常に熱心にやってくさっております大分県のご報告を松岡先生、東保先生、河野先生からお願いします。

【河野】 大分県の現状について報告させていただきます。お手元に資料をお配りしていると思いますけれども、13年度のモデル事業の結果から、この事業の継続性の必要性があることを産科医会、小児科医会の両方が認めましたために、平成14年度は対象者を出産前の妊婦だけではなくて出産後の母親にまで拡大して、ペリネイタルビジットと名称を変更して実施しました。

平成15年4月から、大分市と別府市が事業化いたしまして、保健師さんが入ることによりまして、9月に産科医、小児科医、県医師会、県の保健師、大分市と別府市の保健師による専門部会を設置しております。この専門部会がこの事業の中核的な役割を果たすものと思われ、今後この事業が成功するかどうかの重要なかぎを握るものとして位置付けております。

大分県方式の特徴ですが、市町村枠を越えた全県的な取り組み。これはモデル事業からもう一つの市、一つの町、一つの村では絶対貫徹できないということをおっしゃったので、そのとおりであります。